

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話(521)8494



創刊のご挨拶

平和協会会長
三宅 泰雄

第五福竜丸保存委員会は、昨年三月末に解散するまで三十四号にわたる第五福竜丸ニュースを発行し、福竜丸にかんする情報を関係各位に伝えて参りました。その功績がきわめて大きかったことが、いま、改めて

て痛感されます。私どもの平和協会は、今年はいっその前進をめざす活動方針をとることになりましたので、その方針に沿うためにも、かつての福竜丸ニュースの伝承を守り、装いも新たに、この福竜丸だよりを毎月発行することになりました。今後、関係各位のご支援によって、内容のいっその充実をはかりたいと思っております。

**六万人をこえた来館者
開館二〇カ月で軽く突破**



第五福竜丸展示館への来館者数が、三月五日で六万人を突破しました。この日、天気の良い日曜日とあって五〇五名が来館、通算来館者数六〇二六二名となり、一九七六年六月十日に展示館がオープンして以来二〇ヶ月で六万人を越えたこととなります。来館者数の動向をみると、一〇

ヶ月に六万人ということは、毎月平均三千名となり、毎日の平均では一二〇名ということになります。これは毎日、一三〇名平均の方が福竜丸を見学され、原水爆の問題について考えていただけるということ、ある人たちは、毎日平均一三〇名出席の平和学習会、あるいは原水爆禁止の学習会をひらいているの

と、全く同じであると言っています。その当否は別にして展示館が青少年を中心に平和・原水爆禁止の思想の涵養に役立つようという目的を美事に達成していると言いうことができません。さて、来館者の動向を月別にみると、最高だったのは七七年五月の五二四二名で、最低は七七年十二月の一五四名ということになります。また、一日の来館者数で最高だったのは、七七年五月三日の憲法記念日で九三五名を数えまし



やっと定着した、知る集い

一昨年十月にスタートした「ビキニ事件と福竜丸を知る集い」は、平和協会のユニークな学習活動として各方面の注目を浴びてきました。去る三月で第九回を迎え、ようやく定着するに至りました。次に最近の二回について概況をお知らせします。

第8回 各界の著名人を混え懇談 異色の学習会となる

去る二月八日夜、神田の労音会館でひらかれた第八回「知る集い」は、三宅泰雄会長、明大柴田政利教授、朝日新聞岩垂弘記者、壬生照順師、作家山口勇子さんをパネラーとして迎え、広田専務理事の司会でパネルディスカッションの形で行われました。

三宅会長から「核兵器廃絶へ」という問題提起が行われ、これにつづいてパネラー各氏から発言があり、それをめぐって参加

第9回 NGO国際軍縮会議の報告 帰国した本多女史を招いて

第九回は、協会評議員であり女医さん、二月二十七日から三日までジュネーブ(スイス)でひらかれたNGO国際軍縮会議

議に出席され、三月十二日に帰国された本多喜美女史を囲んで、軍縮会議の様子などゆっくりとお話し頂きました。(出席者二十数名)

とくに会議の第三分科会(行動計画・世論の役割)の模様詳しく報告されましたが、そのまとめ報告に「太平洋の島々とその住民が核実験によって受けた被害を含めて広島・長崎の被爆の実相と後遺の情報を国連軍縮センターが集め、普及すること」と明記されたことが報告され、拍手を浴びました。

そのあと参加者を交えて懇談が行われました。

編集後記

◇春うららという季節になり、かつての第五福竜丸ニュースの再来ともいえる福竜丸だより第一号を送り出して、編集局一同張り切っています。

◇一昨年六月に開いた都立第五福竜丸展示館を管理し、その運営に当たってきた平和協会としては、展示館の利用度が増大し、従って協会自体の仕事が大きく躍進した結果として、この福竜丸だよりが生れたのだと、二重の喜びを感じています。

◇新しい福竜丸だよりの船出に当って毎月発行と紙面の充実を固く誓い合っています。読者のみなさんが暖かいご支持いただき、投書その他さまざまな形でご協力下さることを祈っています。

展示館日記

▼都立・夢の島公園管理事務所が強化され、所長に田口武信主事が着任されました。

尚、江川博嘉主事も同時に就任されました。

▼地盤沈下のため故障中だった冷暖房設備がようやく修理され

ました。とりわけ寒さの厳しかったこの冬、室温二度・三度という中で寒さにふるえていた参観者も勤務員もこれで一安心。

▼主な団体の来館(一月〜三月)

二〇七 はとバスガイド 二四人
二〇九 桐邦中学 一五五人
二一〇 " " 一六四人
二一〇 はとバスガイド 二四人
二一一 板橋親子劇場 二六人

二一二 相模原親子劇場 一八〇人
二一七 尾久小学校 一〇〇人
二一九 江東子ども劇場 六〇人
二一九 足立区立第一中学校(二)人
二二〇 江戸川区松江三中(二六〇)人
二二五 窪町小学校 一五〇人
三〇二 横浜市役 一三人
三〇三 上平井中学校 二一人

▼中年のご婦人が花を事務所に届けて下さった。感激でした。

三百名の参加者でもり上った ビキニデー記念の夕べ

三・一ビキニ事件の二四周年記念日に当たる三月一日午後六時から第五福竜丸平和協会主催による「ビキニデー記念の夕べ」が開催されました。



当日は、午後六時開場と同時に約三百名の婦人・青年・労働者などがホールを埋めました。

第一部「記念式典」は、午後六時二十分田沼盛協会理事の開会の辞と、これまでに亡くなった被爆者への黙とうに始まり、主催者挨拶に立つた三宅泰雄協会会長が「核兵器廃絶のために被爆国民である私達の運動が果たす役割は決定的に重要です。国連軍縮総会に向けて核兵器完全禁止を要請する署名を成功させましょう。」と訴えました。続いて経過報告に立つた田田重道専務理事は「七十六年六月に展示館がオープンして以来、これまで六万人が訪れた事からみても、展示館の存在はきわめて重要だ。」と強調。また日本生協連坪井俊二氏が原水爆禁止統一実行委員会を代表して力強い激励の挨拶を行いました。

このあとルポライターの堀江邦夫氏が福竜丸以外のビキニ被災者である長崎県の平さんの取材経過を報告。「三・一ビキニデー東京アピール」の採択後、神崎清協会理事の閉会の辞で幕を閉じました。

第二部「記念行事」は、音楽文化集団「ともしび」と国鉄東京合唱団の反戦歌や労働歌、ロシア民謡など、時どき全員合唱も含め、終始なごやかな雰囲気進められ、午後九時に全日程を終了しました。

春空に舞う風 恒例の凧上げ大会

賞品も舞う

恒例の新春凧上げ大会が今年も夢の島公園競技場で開催されました。

第五福竜丸平和協会主催によるこの凧上げ大会も今回で六回目を迎え、昨年から東京都と江東区の後援を得て年々盛んになって来ています。

一月十五日の午前十一時から開催された今年の大会には、地元江東を始め約二百八十人が参加、自作の凧や洋凧など色とりどりの凧を上げ、腕を競い合いました。

ただ、当日は好天に恵まれたが、ほとんど風がなく、凧上げには条件がわるく、足や糸を調節したり、競技場を走りまわったり、参加者は大へん苦勞していました。

以下五等までの入賞者十二名。なおコンクールの賞品は、次の所から寄贈がありました。

来館者の 声から



前に船が水にうっていたとき毎日掃除をしてくれたおじさんのおかげで、こんなきれいな第五福竜丸展示館になったんだと思う。

太田 潔

有意義な館内を拝見して、改めて原水爆の恐しさを感じ、平和を祈らずにはいられません。ありがとうございます。

N・K

なんで世界の大国は核兵器を持つのだろう。ほんとうに平和を願うのならそんなものを捨ててしまえばいい。尊い人間の命が原爆なんかで失われてなるものか。

第五福竜丸、いつまでもここにいて、ビキニの生証人として生きていてくれ。

千加志

その証をしつかり守ってほしい。いつか来たいと思っています。私は中学の時原爆の勉強をし、広島へ行って原爆ドーム、資料館などを見ましたが、この福竜丸を見てその時と同じ感動をうけました。多くの人に原爆や水爆の恐しさを伝えるためにいつまでもこのまま残してほしい。

高一生

新聞・ラジオで見聞きしておりました。娘の十二歳の誕生日を記念して、本日実物を見ることとできました。

第五福竜丸の事件を後の世の人々にも伝えるため、今後とも保存に努力されて、世界平和の礎となるように祈ってやみません。

他の用事でここへきたのですが、「福竜丸」を目の前にして、なにか胸がキューと痛くなってきました。「平和」について関心はあるのですが、日常生活に追われて、つい忘れてしまう。

無名氏

巨匠新藤兼人氏が広島原爆投下を告発する衝撃の
「記念ドキュメント8・6」一般公開
併映「抵抗の詩Ⅱ」
7月14日～8月12日 労音会館
株式会社 独立映画センター
港区新橋3-6-2 大洋ビル
☎432-8631

